

S/F
REAL4
オプション

REAL4をフルに使うために

入力支援システム

このシステムは建物の構造を自動認識して入力を支援します。
マスタ入力から配置入力までが自動になるので、施工図、積算の入力時間を大きく減らせます。

概要

- 1 CADファイルを読み込みます。
- 2 自動的に部材を認識し、マスタや梁伏図からシステムが入力データを作ります。
- 3 これで図面や資料を出力可能、施工図や積算の入力支援に使えます。

図面を自動的に認識

基本設計図がファイルとしてあれば、図面を読み込み自動的に解釈して、柱、梁を配置し、仕口を構成する板、ガセット、各種の継手を自動的に作り、3次元データを3Dで見ることができます。

簡単で、早い

これらは操作が簡単で、手数がほとんどなく、人が操作するような誤りがありません。また、認識しにくいところ、できない部分はわかるように表示します。画面のような建築では、マスタ等の自動認識が済めば、1つの階で柱、梁の認識は数秒でほとんど瞬間的です。それで配置入力が済み、画面に梁伏図が現れます。

図面、帳票を出力

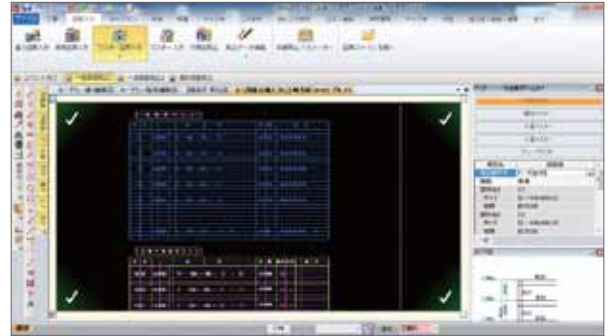
この時点で入力が終わっており、各一般図、詳細図、加工図、管理資料はいつでも出力でき、積算システムがあれば、見積、積算の各帳票も出力できます。

追加、修正が自由

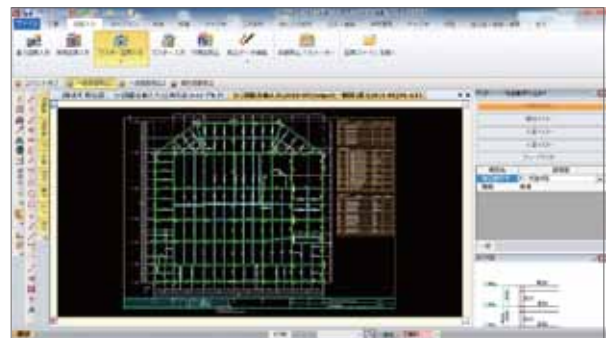
自動での入力が終わった段階で、対応できないものがあれば追加で入力しますが、専用CADなので速く終了します。

各種の図面ファイルに対応

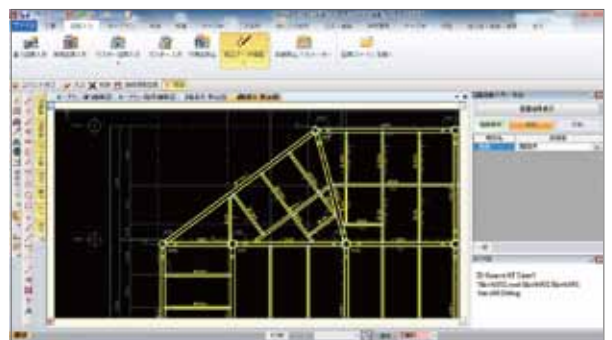
基本設計図の自動認識は入力部分が行うため、施工図でも積算でも同じように利用できます。CADファイルの形式はDWG、DXF、JWWのどれでも対応しています。PDF対応はお問い合わせ下さい。



部材マスタを指定



元の梁伏図



自動的に入力データを作る



3Dで表現

DATA LOGIC

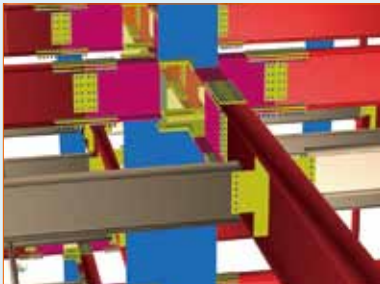
<http://www.datalogic.co.jp>

S/F REAL 4

鉄骨CADを生かしたBIMソリューション

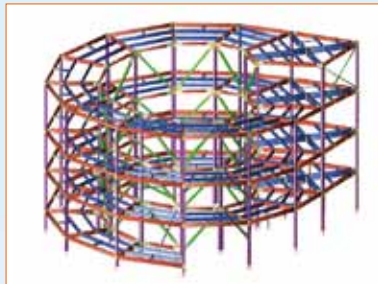
施工図システムにIFCファイルの出力が追加されました。鉄骨専用CADは日本のファブで標準的なものになっています。

鉄骨製作の自動化、効率の向上、コストダウンなど大きな効果を上げていて、
建築に参加する各分野がBIMを活用すれば、企業の枠を超えて効率化が図れます。



3次元表示のウォークスルー

連続的に建物の中を表示し、注目点を近距離から見る事ができます。



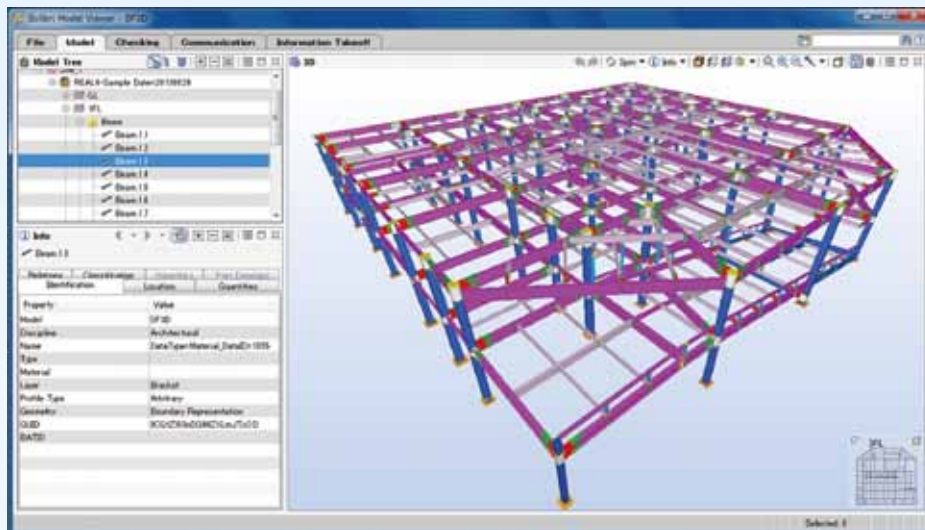
階を越える梁

スロープが簡単に、自由に入力できます。これは軸組図で入力し、自動的に他の図面に反映します。



3Dリアルタイム

入力中でも3D表示ができるので、平面で入れたデータがどうなるのかは3次元ですぐにわかります。

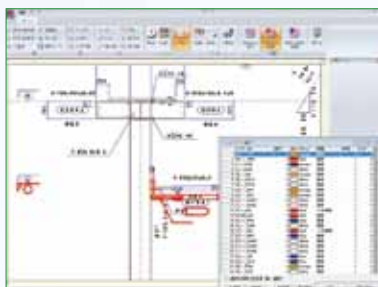


IFCモデル



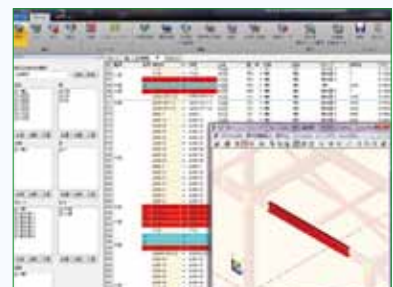
干渉チェック

干渉している箇所を一覧で表示します。また項目クリックで干渉部分の部材の色が変わります。



図面比較

図面が変更されると、前回出力した図面と違っているところは色を変えて表記するので、確認が容易です。



符号管理3D

符号をつける項目が建物内のどの部位なのかを3Dビューアで確認できます。従来どおり2Dでも可能です。